神奈川の基地の１２月　厚木・座間・横須賀

すべての基地にＮＯを！ファイト神奈川　　木元　茂夫

●厚木基地　在韓米軍機の飛来と第４次爆音訴訟提訴

１２月１０日、在韓米軍の群山空軍基地からＦ－１６戦闘攻撃機５機が厚木基地に飛来した。戦闘攻撃機というのは、ミサイルや爆弾を搭載して飛び立ち地上を攻撃する役割の軍用機である。名古屋空港に空母キティホークの艦載機、ＦＡ－１８戦闘攻撃機が緊急着陸したのが１１月２８日。韓国の空軍基地から厚木基地へ向けて飛行中に起きた事故との報道に驚いた。キティホークの横須賀帰港が２７日だったから、その数日前に空母から韓国空軍基地に向けて飛び立ったと思われる。その２週間後には、今度は韓国から米軍機がやってきたのだ。

米海軍と海兵隊の間では「戦術航空統合計画」が進行していて、岩国基地にいるＦＡ－１８もよく厚木基地にやってくる。しかし、米空軍の戦闘機が厚木基地にやってくるのはまれである。しかも、韓国から。群山基地には今年６月イタリアのアビアノ基地からＦ－１６戦闘攻撃機１８機が移駐し、Ｆ－１６部隊は大幅に増強された。今回やって来たのはその部隊ではなく、もともと群山にいた飛行隊である。厚木基地ではＦＡ－１８とＦ－１６が編隊を組んで飛び立つのが連日見られた。米軍再編の大きな焦点である空母艦載機の岩国への移駐、しかし、どうやらそれだけに止まらない軍用機の再配置計画を米軍はもっていることを予感させる光景だった。

１２月８日は基地近くの大和公園で「違法爆音は止めろ、飛行差止め実現、第４次訴訟勝利１２・８大和集会」が開催され、基地のフェンス沿いにデモ行進が行われた。集会に先立って、厚木基地爆音防止期成同盟は、基地正門で海自関係者に、来年度から予定されているジェット対潜哨戒機（ＰＸ）が性能評価試験を実施することに「爆音を増大させる」と訴えた。同機は強度試験で水平尾翼の変形と胴体に亀裂と変形が発生しており、ＰＸの厚木基地への乗り入れ中止を申し入れた。

爆音被害に苦しむ厚木基地周辺の住民は第４次爆音訴訟に向けた準備を進め爆音被害に苦しむ厚木基地周辺の住民は第４次爆音訴訟に向けた準備を進め１２月１７日、６，１３０人の大原告団で横浜地裁に提訴した。損害賠償と飛行差止めを求める裁判がこれからはじまる。

12 月 8 日の厚木基地へのデモ

●キャンプ座間　第一軍団前方司令部の発足に抗議

１２月１９日、神奈川県の座間市と相模原市にまたがるキャンプ座間で、米陸軍第一軍団前方司令部の発足が強行された。しかし、当初予定されていた司令部とはかなり異なるようだ。ラムズフェルド国防長官の退任とともにＵＥＸ・ＵＥＹという構想は姿を消し、規模は縮小されたようである。そして、地元座間市の星野市長が「恒久化解消の展望を示せ」とこれに反対の姿勢を堅持し、発足式に招待された松沢神奈川県知事、中田横浜市長、加山相模原市長は全員欠席。誰も歓迎する人はいない中での発足に、米陸軍は追い込まれた。司令部に隣接する公園では、１５日のデモに続いて抗議行動が取り組まれシュプレヒコールがとどろいた。

しかし、この日の記者会見で第一軍団司令官のチャールズ・ジャコビー陸軍中将は、「今日、われわれは日本で第一軍団の旗を展開することにより、陸自とのさらなる発展に向け重要な歴史を刻むことになる」と強調している。陸上自衛隊中央即応集団司令部は２０１２年までに設置するとされている。現在のところ陸自のめだった動きはないが、発足式にはかなりの陸自関係者が出席したようである。

陸上自衛隊との関係強化はどういう方向に進んでいくのか。「ヤマサクラ」の

名称の米陸軍と陸自の合同指揮所演習がここ数年すでに繰り返されてきた。今年は「日米共同方面隊指揮所演習」１２月８日から１７日まで、陸上自衛隊仙台駐屯地で実施された。訓練統裁官は、日本側東北方面総監・宗像陸相米陸軍は第一軍団長ジャコビー陸軍中将。なんのことはない、キャンプ座間での発足式はこの指揮所演習と連動していたのである。今後、キャンプ座間を舞台にさまざまな共同演習が繰り返されることになろう。日米の軍事協力の強化は東アジアの緊張を高める、それをはっきり主張しながら、今後の行動に参加していきたい。

●横須賀　原子力空母の配備を止めるために　再度の直接請求へ

１２月２０日、横須賀市民で作る「住民投票を成功させる会」は記者会見。来年８月１９日とされている原子力空母ジョージ・ワシントンの配備をストップさせるため、昨１２月、４２万横須賀市民のうち４１，５９１名の署名、有権者の９％の支持を得た「原子力空母の是非を問う住民投票条例」の制定を求める再度の直接請求にチャレンジすることを発表した。半年を越える長い議論を経て、もう一度、横須賀市民の意思を示すことが、一番効果的な方法であることを確認した。

12 月 15 日キャンプ座間正面ゲート前での申入れ

横須賀軍港では原子力空母の母港とするため、港の水深を１５メートルから１７メートルに掘り下げる浚渫工事が８月１０日から始まり、１１月からは夜間の工事まで行われるようになった。汚染物質を大量に含む海底のヘドロをすくい上げるために、水質は悪化の一途をたどっている。さらに、純水製造プラント、ガス発電所などの設備の建設中、このままでは、横須賀は原子力艦船の拠点になってしまう、そういう危機感を多くの人々が感じている。

米海軍が原子力潜水艦の安全点検を怠っていたこと、鹿児島に入港したイージス艦が火事があったのを隠していたこと、次々にこうした事実が明らかになっている。

横須賀を米海軍の空母が母港としてから３４年、横須賀市民は大きな取組みにたちあがろうとしている。名古屋、愛知のみなさんに、支援を訴えたい。